



岩城少年自然の家だより

自然は友だち 青い海原 緑の山なみ

のべ利用者数（1983年6月～2025年7月） 1,146,404 名 8月の利用者数 514 名

秋田県立岩城少年自然の家
（ガンパル岩城）2025. 9. 26

共催 B & G 大内海洋センター
後援 由利本荘市

親子ふれあい事業①



令和7年度新規事業「ファミリー・サップ体験」参加者の皆様

由利本荘市後援の県立施設として、8月中にB & G大内海洋センターとの共催で、「親子ふれあい事業ファミリー・サップ体験」を、計4回実施しました。

この事業は、由利本荘市教育委員会秋山正毅教育長から後援についてご快諾いただいた際、「大内艇庫周辺施設の活用モデル」についてご相談いただいたことが始まりでした。その後、施設の視察や指定管理者との協議、市場ニーズの調査等を踏まえて活用モデルを提案し、由利本荘市からご了承いただき実現した事業でした。

当初の計画は8月上旬2回開催でしたが、参加者アンケートの回答に「継続開催希望」のご意見を多数いただき、B & G大内海洋センター担当者からも要請をいただいたことから、学校の協力を得て、8月中に事業2回分の追加募集を実施しました。

大変ありがたいことに、計4回の事業とも、募集定員を上回る応募をいただきました。また、2回の追加募集では、複数のご家庭に再応募していただきました。

計4回の事業参加者の総計は51人、参加保護者の年代は、40歳代が66%、次いで30歳代22%、50歳代と60歳代が各6%でした。

ある参加者の方から、「一人親家庭にはこうした企画はありがたい。」とのご意見を頂戴しました。我々の励みになるとともに、働き盛り子育て世代の本音を知る機会となりました。参加者からのご意見は、今後の事業計画に反映させていただきます。

親子ふれあい事業②



令和7年度新規事業「希少な生き物に会おう旅」

～ ガサガサ体験 ～

子どもの頃、私の家の近所には小川が流れ、メダカやオタマジャクシが泳ぎ、タガメやミズカマキリ、ヤゴなどがいました。幼稚園の帰り際、腕まくりして小川の泥を鷺掴みにした私の手にはいつも数匹のヤゴが入り、秋にはアキアカネの大群が頭上を飛び交いました。その小川も今は道路になっています。

8月、B & G 大内海洋センター担当者から、「郷土教育」の実践について相談がありました。地域の方に、郷土の文化・伝統、環境等のもつ価値について学ぶ機会を提供したいとのことでした。すぐに、ジオパーク事務局の長船研究員に連絡をとり相談すると、日程や体験活動の内容がすぐに決まりました。

当日は大人も子どもも小川に入り、水辺の生き物を採取するガサガサを体験しました。参加者はゲンゴロウやドジョウ、モツゴなどの、たくさんの希少な生き物の生息を目の当たりにし、郷土の自然の豊かさとその価値、そして、地域の方々の自然保護の取組について深く知る機会となりました。

自分で採った生き物に触れた時の子どもたちの輝く眼差しとその様子を見届ける親御さんの表情に、自然の素晴らしさを実感しました。今は希少な生き物たちが生息していますが、長船研究は「この状態もあと数年もつかどうかです。」と話しました。後世に残すべき、価値ある自然がここにあります。

10月の予定

受け入れ団体等

象潟小学校	2日（木）～ 3日（金）	亀田・道川保育園交流会	9日（木）
高校教育課 イングリッシュキャンプ	4日（土）	会津ザベリオ学園中学校	9日（木）～ 10日（金）
東仙台中学校	4日（土）～ 5日（日）	いわき市内郷第二中学校	22日（水）～ 24日（金）

<主催事業・出前講座>

稲川支援学校	1日（水）	いいたがわ児童クラブ	14日（火）
ファミリー・フィッシング体験	4日（土）	オープンデー	19日（日）
木のおもちゃ館	5日（日）	おとなの遠足（秋）	29日（水）
東由利教育学習課	7日（火）		



秋田県立岩城少年自然の家



FB



IG



HP



ガンバル
岩城



【宿泊研修受け入れ再開】

当施設では、職員による熊対策（6/10版参照）を継続し、6月以降、熊の目撃情報はありません。夏休み以降の宿泊研修受け入れが始まり、各学校では自然体験活動を実施しています。

当施設では、今後も熊対策に最善を尽くします。ご心配な点は、遠慮なくご質問ください。



岩城少年自然の家だより

自然は友だち 青い海原 緑の山なみ

のべ利用者数（1983年6月～2025年7月） 1,146,404 名 8月の利用者数 514 名

秋田県立岩城少年自然の家
（ガンパル岩城）2025. 9. 26

共催 山人楽師

善意の第三者とともに

～ 自然散策路復活プロジェクト始動！ ～



ご協力いただいた参加者の皆様

当施設所長の任を拝命してからもうすぐ半年を迎えます。思い返せば4月、最初の職員会議で、閉鎖中の自然散策路再開に向けた作業日程について質問があり、総務チームリーダーと自然散策路再開の経緯を紐解き、実際に歩いて自然散策路の状況を確認しました。

その結果、学校受け入れの繁忙期に、少ない職員で自然散策路の改修を行うことは困難と判断しました。同時に改修費用の概算見積もりも行いましたが、現状の県財政では支出困難な金額であることも分かりました。

そこで、山岳域で活動を行う全国規模のNPO法人に相談したところ、同団体の全国理事が本県にいらっしゃることを紹介いただき、5月に全国理事の方に連絡を差し上げました。まもなく全国理事を含む3人の方から、閉鎖中の自然散策路「うさぎコース」を視察していただきました。

視察後の協議では、全国理事の方から「私たちが仲間にボランティアを募り改修作業をお手伝いしましょうか。」というご提案をいただきました。このときの率直な感想は、「一施設の改修作業に無関係の第三者が協力してくれるものだろうか？」というものでした。

ゼロ予算であり、無理なことは求めていることとお伝えすると、「私たちは好きだから活動しているので、お金は問題ではないです。」という返答をいただきました。

令和7年9月6日（土）、全国理事が所属する協賛団体山人楽師（やまとかくし）や地域のボランティアの方々が集い、善意の第三者による自然散策路復活に向けた改修作業が始まりました。午前中の作業で、4年あまり藪により消失していた自然散策路の姿が現れました。

ついに「自然散策路復活プロジェクト」が始動しました。善意の第三者による、本当にありがたい、また、意味ある第一歩だと感じております。皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。山人楽師を初めとする参加者の皆様、本当にありがとうございました。